

## 引用文献

- 足立 匡基・高橋 芳雄・中村 和彦 (2020). 子どもたちの心の健康を定点観測し、早期支援に繋げる仕組みの開発 文部科学省委託事業子どもみんなプロジェクト 子どもみんなプロジェクト事業成果報告書, 20-23.
- Deegan, P. E. (1988). Recovery: The lived experience of rehabilitation. *Psychosocial Rehabilitation Journal*, 11(4), 11–19. <https://doi.org/10.1037/h0099565>
- Glaser, B.G., & Strauss, A.L. (1967). *The Discovery of Grounded Theory: Strategies for Qualitative Research*. New York. (グレイザー, B.G., & ストラウス, A.L. 後藤隆・大出春江・水野節夫(訳) (1996). データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか 新曜社)
- Elliott, J. G., & Place, M. (2019). Practitioner Review: School refusal: developments in conceptualisation and treatment since 2000. *Journal of child psychology and psychiatry, and allied disciplines*, 60(1), 4–15. <https://doi.org/10.1111/jcpp.12848>
- 林 郷子 (2008). 不登校の親子関係についての一考察—子どもの思春期課題と親の中年期課題との相互作用から— 奈良大学大学院研究年報, (13), 1-11.
- Heyne, D., Gren-Landell, M., Melvin, G., & Gentle-Genitty, C. (2019). Differentiation between school attendance problems: Why and how? *Cognitive and Behavioral Practice*, 26(1), 8-34. <https://doi.org/10.1016/j.cbpra.2018.03.006>
- 平瀬 由樹 & 西村 昭徳 (2015). 母親は子どもの不登校をどのように受け止めていったか 東京成徳大学大学院心理学研究科臨床心理学研究, (15), 129-138.
- 保坂 亨 (2002). 展望 不登校をめぐる歴史・現状・課題 教育心理学年報第, 41, 157-169. [https://doi.org/10.5926/arepj1962.41.0\\_157](https://doi.org/10.5926/arepj1962.41.0_157)
- 本田 由紀 (2005). 日本の＜現代＞13 多元化する「能力」と日本社会—ハイパー・メリトクラシー化のなかで— NTT 出版株式会社
- 本田 由紀 (2014). 社会を結びなおす—教育・仕事・家族の連携へ 岩波ブックレット 899 岩波書店
- 石毛 みどり & 無藤 隆 (2005). 中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャル・サポートとの関連—受験期の学業場面に着目して 教育心理学研究, 53(3), 356-367. [https://doi.org/10.5926/jjep1953.53.3\\_356](https://doi.org/10.5926/jjep1953.53.3_356)

- 石井 京子 (2009). 【看護に活用するレジリエンスの概念と研究】 レジリエンスの定義と研究動向 看護研究, 42(1), 3-14. <https://doi.org/10.11477/mf.1681100350>
- 板橋 登子 (2000). 不登校児をもつ母親の養育態度と自己像 カウンセリング研究, 33(1), 8-17.
- Johnson, A. M., Falstein, E. I., Szurek, S. A., & Svendsen, M. (1941). School phobia. *American Journal of Orthopsychiatry*, 11(4), 702-711. <https://doi.org/10.1111/j.1939-0025.1941.tb05860.x>
- 加藤 美帆 (2012). 不登校のポリティクス 社会統制と国家・学校・家族 勁草書房
- 川中 淳子 (2003). 登校拒否児(者)の親の相互援助グループに関する文献展望 総合政策論集, 6, 1-14
- 萱間 真美 (2013). 連載 ストレングスモデルを習いに出かける 第2回 リカバリー、エンパワメント、ストレングスモデルの関連 精神看護, 16(6), 68-71.  
<https://doi.org/10.11477/mf.1689101240>
- 金 玉禮 (2015). 「わが子の不登校」を経験した母親に関する一考察ー母親たちの生活環境に影響する「子どもの不登校」ー 教育福祉研究, 20, 95-105.
- 古寺 久仁子 (2007). 精神保健福祉分野のエンパワメント・アプローチに関する考察 ルーテル学院研究紀要, (41), 81-99.
- 子ども・若者育成支援推進本部 (2016). 子供・若者育成支援推進大綱～全ての子供・若者が健やかに成長し、自立・活躍できる社会を目指して～.[ウェブサイト].  
<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/pdf/taikou.pdf> (検索日:2021 年 4 月 28 日)
- 子ども・若者育成支援推進本部 (2021). 子供・若者育成支援推進大綱 ～全ての子供・若者が自らの居場所を得て、成長・活躍できる社会を目指して～. [ウェブサイト].  
<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/pdf/r03-taikou.pdf> (検索日:2021 年 4 月 28 日)
- 厚生労働省 (2005). 子どもの心の診療医の養成に関する検討会 平成 17 年度報告書.  
[ウェブサイト]. <https://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/03/h0331-13a.html>  
(検索日:2021 年 4 月 8 日)
- 厚生労働省 (2015). 「個別事項(その2:精神医療について)」. [ウェブサイト].  
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000102476.pdf>.  
(検索日:2021 年 4 月 8 日)

厚生労働省 (2017). 平成 29 年患者調査の概況. [ウェブサイト].

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/17/index.html> (検索日:2021 年 4 月 8 日)

Luthar, S. S., Cicchetti, D., & Becker, B. (2000). The Construct of Resilience: A Critical Evaluation and Guidelines for Future Work. *Child Development*, 71(3), 543–562.

前田 利江 & 鈴木 美樹江 (2020). 思春期不登校の子どもをもつ母親の心理変容過程についての一考察 心理臨床学研究, 37(6), 537-548.

松本 訓枝 & 木田 淳子 (2001). 「登校拒否」「不登校」研究の変遷—日本における原因論の動向— 生活文化研究, 41, 1-16.

松岡 純子・玉木 敦子・初田 真人・西池 絵衣子 (2013). 広汎性発達障害児をもつ母親が体験している困難と心理的支援 日本看護科学会誌, 33(2), 12-20.

[https://doi.org/10.5630/jans.33.2\\_12](https://doi.org/10.5630/jans.33.2_12)

Maynard, B.R., Heyne, D., Brendel, K.E., Bulanda, J.J., Thompson, A.M., & Pigott, T.D. (2015). Treatment for school refusal among children and adolescents: A systematic review and meta-analysis. *Research on Social Work Practice*, 1– 12. <https://doi.org/10.1177/1049731515598619>

Minamitani Noriko, & Matsumoto Yuki.(2018). Developmental Trial of a Cognitive Behavior Therapy Program for Parents of Junior High Students Exhibiting School Refusal: Evidence Based on a Small Sample from a Metropolitan Area in Japan. *School Health*, 14, 1-11  
[https://doi.org/10.20812/jash.SH\\_086](https://doi.org/10.20812/jash.SH_086)

文部科学省 (2003). 不登校の現状に関する認識. [ウェブサイト].

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf) (検索日:2021 年 4 月 8 日)

文部科学省 (2016). 不登校児童生徒への支援に関する最終報. [ウェブサイト].

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/01/1374856\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/01/1374856_2.pdf) (2021 年 4 月 8 日閲覧)

文部科学省 (2017). 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針.[ウェブサイト].

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/\\_icsFiles/afieldfile/2017/04/17/1384371\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2017/04/17/1384371_1.pdf). (検索日:2021 年 4 月 28 日)

文部科学省 (2019). 「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」. [ウェブサイト].

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm) (検索日:2021 年 4 月 8 日)

- 文部科学省 (2020). 令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果. [ウェブサイト]. [https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext\\_jidou02-100002753\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf) (検索日:2021 年 4 月 8 日)
- 文部科学省委託事業子どもみんなプロジェクト (2020). 子どもみんなプロジェクト事業成果報告書
- 明翫 光宜 & 辻井 正次 (2020). コホート研究の知見を子どもへの支援に活用する 中京大学・大阪府市教育委員会の実践 文部科学省委託事業子どもみんなプロジェクト 子どもみんなプロジェクト事業成果報告書, 24-27.
- 永光 信一郎・秋山 千枝子・廣瀬 伸一・阿部 啓次郎・安 炳文・井上 信明・加治 正行・齋藤 伸治・早乙女 智子・定本 ゆきこ・佐藤 武幸・田中 英高・三牧 正和・村田 祐二・山中 龍宏・平岩 幹男・伊藤 悦朗 (2015). ii. 小児科学会会員および保護者へのアンケート調査報告, 平成 26 年度厚生労働省児童福祉問題調査研究事業「思春期及び成人期、更年期以降の母性保健に関する保健指導等のあり方についての調査・研究（妊婦時・分娩時・産褥期・授乳期以降を除く）」報告書, 5-23. [ウェブサイト]. [http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/jidouhukushihoukoku2015\\_2\\_1.pdf](http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/jidouhukushihoukoku2015_2_1.pdf) (検索日:2021 年 4 月 28 日)
- 内閣府 (2014). 平成 25 年度アウトリーチ（訪問支援）研修報告書
- 中地 展生 (2011). 不登校児の親グループの援助効果に関する研究 帝塚山大学心理福祉学部紀要, 7, 119-130.
- 名手 千晶 & 齋藤 和彦 (2020). 精神疾患(精神保健問題)の子どもを支える訪問看護による支援 小児看護, 43(1), 62-68.
- 西田 みゆき (2010). 養育上の困難を抱える母親の empowerment の概念分析 日本看護科学会誌, 30(2), 44-53. [https://doi.org/10.5630/jans.30.2\\_44](https://doi.org/10.5630/jans.30.2_44)
- 西村 智恵子 & 高野 久美子 (2020). 学童自閉症スペクトラム児の母親における困難への対処に伴う体験のプロセス 人間福祉学誌, 19(2), 17-24. [https://doi.org/10.34591/humanwellbeing.19.2\\_17](https://doi.org/10.34591/humanwellbeing.19.2_17)
- 野嶋 佐由美 (1996). 看護ケアパラダイムの変換をめぐって エンパワメントに関する研究の動向と課題 看護研究, 29(6), 453-464. <https://doi.org/10.11477/mf.1681900367>

- 小嶋 秀幹 & 田中 玲衣 (2020). 子の不登校を経験した母親が相談機関につながるまでの行動と心理的变化過程－複線経路・等至性モデル(TEM)による分析－ 福岡県立大学心理 臨床研究, (12), 3-15.
- 小野 修 (1993). 不登校児の親の変化過程仮説 パーソンセンタード・アプローチ 心理臨床学研究, 10(3), 17-27.
- Ragins, M. (2002). *A Road to Recovery*. (レーガン, M. 前田ケイ(監訳) (2005). ビレッジから学ぶリカバリーへの道—精神の病から立ち直ることを支援する 金剛出版)
- Rutter M. (1985). Resilience in the face of adversity. Protective factors and resistance to psychiatric disorder. The British journal of psychiatry : the journal of mental science, 147, 598–611. <https://doi.org/10.1192/bjp.147.6.598>
- 斎藤 万比古 (2016). 増補 不登校の児童・思春期精神医学 金剛出版.
- 斎藤 暢一郎 (2013). 調査から見る不登校・ひきこもりへの訪問援助の展開 首都大学東京 心理学研究, 23, 1-9.
- 斎藤 暢一郎 & 若島 孔文 (2012). 訪問援助における三者関係モデルの構築－不登校・ひきこもりへの家族援助としての機能－ 家族心理学研究, 26(1), 13-24.
- Strauss, A. & Corbin, J. (1998) *Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory* (2nd ed), (ストラウス, A.L. & コービン, J. 操華子・森岡崇(訳) (2004). 質的研究の基礎 —グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第 2 版 医学書院)
- Strauss, A. & Corbin, J. (2008). *Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory* (3rd ed), (ストラウス, A.L. & コービン, J. 操華子・森岡崇(訳) (2012). 質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリー開発の技法 と手順 第 3 版 医学書院)
- 鈴木 浩太・小林 朋佳・森山 花鈴・加我 牧子・平谷 美智夫・渡部 京太・山下 裕史朗・林 隆・稲垣真澄 (2015). 自閉スペクトラム児(症)をもつ母親の養育レジリエンスの構成要素に関する質的研究 脳と発達, 47(4), 283-288. <https://doi.org/10.11251/ojiscn.47.283>

- Suzuki, K., Kobayashi, T., Moriyama, K., Kaga, M., Hiratani, M., Watanabe, K., Yamashita, Y., & Inagaki, M. (2015). Development and Evaluation of a Parenting Resilience Elements Questionnaire (PREQ) Measuring Resiliency in Rearing Children with Developmental Disorders. *PloSone*, 10(12), e0143946. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0143946>
- Suzuki, K., Kobayashi, T., Moriyama, K., Kaga, M., & Inagaki, M. (2013). A framework for resilience research in parents of children with developmental disorders. *Asian Journal of Human Services*, 5, 104–11. <https://doi.org/10.14391/ajhs.5.104>
- 庄司 順一 (2009). 「レジリエンスについて」 人間福祉学研究, 2(1), 35-47.
- 高橋 恵美子・谷口 敏代・山下 一也 (2020). 学童期の発達障害児を養育する母親の困難に関する文献検討 日本医学看護学教育学会誌, 29(2), 42-51.
- 富田 恵子 (2000). 不登校児の親の変化過程への援助方法 パーソンセンタード・アプローチ 心理臨床学研究, 18(1), 38-45.
- 浦尾 悠子・小柴 孝子・猿渡 正利・清水 栄司 (2020). 「勇者の旅」プログラムの現場への普及と今後の課題～子どもの不安の問題を予防し、こころの健康をつくるための取り組み～ 文部科学省委託事業子どもみんなプロジェクト 子どもみんなプロジェクト事業成果報告書, 15-19.
- Werner, E. E. (1993). Risk, resilience, and recovery: Perspectives from the Kauai Longitudinal Study. *Development and Psychopathology*, 5(4), 503–515.  
<https://doi.org/10.1017/S095457940000612X>
- 山本 真美・門間 晶子・加藤 基子 (2010). 自閉症を主とする広汎性発達障害の子どもをもつ子育てのプロセス 日本看護研究学会雑誌, 33(4), 21-30.  
<https://doi.org/10.15065/jjsnr.20100129002>
- 吉村 美佐子 & 家近 早苗 (2014). 不登校などの問題状況にいる子どもの保護者が援助者の援助を受け止めるプロセス 児童学研究：聖徳大学児童学研究紀要, (16), 31-39.